

あなたの街が災害にあったら…

福島の実現

地域が「壊れる」と何が起るのか

避難所・仮設の暮らしと支援の実態、コミュニティの今

龍谷大学福祉フォーラム 「第9回共生塾」

東日本大震災において、地震と津波に加え、放射能被害にさらされた福島では、単に住民が生活の場を追われただけではなく、集団移転、分離避難などコミュニティそのものが揺らいでおり、そこでは家族の崩壊、住民間の関係の悪化などさまざまな苦悩が生まれています。

福島県在住の鈴木典夫氏は、阪神・淡路大震災以来、能登、中越など日本の大きな自然災害支援にあたってきた災害支援のエキスパートですが、この度の東日本大震災では、自ら属する福島大学が避難所となり、その運営の責任者として、避難者の尊厳を大切にすばらしい運営をされました。また現在も学生とともに仮設住宅に対する支援を続けています。

今回の共生塾では、鈴木氏が直面している福島のコミュニティの現実と、その再生に向けた取り組みを、避難所、仮設住宅の暮らしと支援の実態を踏まえつつお話しいただくことになっています。単に災害支援を巡るお話だけではなく、コミュニティがどのように維持されているのか、それが崩れるとき何が起るのかなど、地域のあり方を考える機会となることと思います。

日時:2012年2月25日(土)

講演:13:00~14:20 対談:14:35~15:20

場所:龍谷大学瀬田キャンパス
RECホール1階 小ホール

講演:鈴木 典夫氏(福島大学教授)

同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。文学修士。
京都市社会福祉協議会地域福祉活動専門員、高野山大学講師を経て、
1999年より福島大学教授。

専門分野:地域福祉, 地域援助技術(コミュニティワーク)

質疑・対談:山田 容(龍谷大学社会学部准教授)

参加費
無料

定員
50名

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC滋賀)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL / 077-543-7744 FAX / 077-543-7771
E-mail / r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp
ホームページ / http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/

